

国語：友達とかかわり合い、楽しく漢字の習熟を図る授業

1 MAP を生かした指導の工夫

漢字の習熟は、ひたすらノートに練習する、またはドリル等を使用するといった、個人的で機械的な学習方法が多く用いられている。ここでは、友達とかかわり合い、一緒に楽しみながら漢字に触れ、書く活動への意欲付けにつなげていけるような授業を工夫した。

2 単元名 漢字の練習

3 指導対象学年 中学年以上

4 単元の目標

(1) 教科としての目標

既習の漢字を読んだり書いたりして定着を図るとともに、読み替えや熟語としての使い方も身に付ける。

(2) MAP 導入のねらい

友達とのかかわり合いを楽しみながら、安心して声を出したり動いたりできる雰囲気味わう。

5 指導に当たって

漢字の学習は、好き・嫌いがかなりはっきりと分かれる。嫌いな理由は、覚えられない・苦手・楽しくない…等が考えられる。普段の漢字学習を考えても、個人で机上学習したことを、ミニテスト等で確かめ、点数化して終わりという場合が多い。そこで、よくありがちな個人で行う学習形態だけではなく、友達とのかかわりをもたせたり、苦手な児童が主体的に取り組めるようにゲーム的な楽しさを加味したい。体を動かし、声を出して、十分に漢字に触れる活動を体験した上で、自分がかかわった漢字や熟語を全体に伝える形で書き取りの活動へとつなげていく。体験的・主体的な活動で身に付けた内容をノートに整理していくことで、次の漢字を学習する上での大きな意欲付けになると考える。

6 指導計画例

	時 数	学 習 内 容
新出漢字の学習	1(本時)	新出漢字の読み・書き・使い方等の理解
読み取り等	単元による	物語や説明文の内容や構成を読み取る
まとめ	1※	習熟テストや発表会等

- ・単元の最初の時間ではなく、まとめとして(※の時間に)行うこともできる。
- ・使用漢字を少なく設定し、毎日の国語授業のスタートに短く行うこともできる。

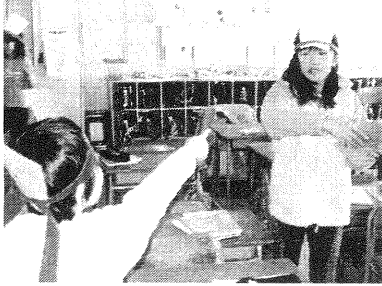


7 本時の指導

(1) 本時のねらい

- 友達とかかわり合いながら活動し、漢字の読み方、書き方、使い方等を楽しく学ぶ。
- 自分が体験し、学習したことを友達に伝え、教え合う。

(2) 授業の展開

<活動例> (場所；教室，特別教室，体育館等)

	学習内容	児童の活動と留意点
導入 (10分)	新出漢字を確認する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習する漢字について，教科書の巻末ページ等を利用して読み方・熟語を読み合う。簡単にやり方を確認する。</li> </ul>
展開 (20分)	熟語あての活動をする   	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の使える範囲を限定しておく。 (単元やテスト範囲等)</li> <li>・全体を2チームに分ける。</li> <li>・1人ずつはちまきをする。</li> <li>・2文字熟語を，はがき大程度の紙(カード)2枚に漢字1文字ずつ書き，頭の前後に1枚ずつ差し込む。</li> <li>・チーム対抗で，熟語の当てっこをする。前のカードだけ見て勘でどんでん言いつけてもいいし，回り込んで後ろを見ようとしてもかまわない。やや離れた位置から叫ぶように言ってもよい。次々相手を代えて，言ってもよい。</li> <li>・壁や床を使って隠すのはよいが，手などで隠すのはだめ。</li> <li>・当てられたら，カードは相手に渡す。</li> <li>・当てた人はそのまま続け，当てられた人は所定の場所に戻り，新たに書いたカードを再び装着して参加する。</li> <li>・熟語を書く場所に，相手は侵入できないことにしておくといよい。また，教科書を開いて置いておき，常に漢字が確認できる状態にしておくとい，苦手な児童もスムーズに活動に参加できる。</li> <li>・取ったカードは整理し，熟語として黒板に貼り出す。(同じ漢字はまとめる)</li> </ul>
まとめ (15分)	漢字の読み合わせをし，短文作りをする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動を通して感じたことを発表し，全体で共有する。</li> <li>・熟語カードを黒板に貼り出し，読み方を全員で確認する。</li> <li>・貼り出されたカード(熟語とその読み方)を使った短文を考え，ノートに書き出す。</li> </ul>

形態	教師の働き掛け	MAPを生かして工夫した点	サイクル
一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動への期待感をもたせてから読み合う。</li> </ul>		
<p>全体を2チームに分ける</p>	<p>「人との競争ではなく、漢字の読み方へのチャレンジをしよう。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>漢字や熟語の間違いを見付けたら、その都度修正させる。</li> <li>早足以上はスピードを出さないようにさせる。(安全面に配慮)</li> <li>熱くなる子・まったく動かない子がいる場合は、途中で止め、目的の確認をする。(ストップの合図)</li> </ul> <p>「相手に当ててもらうだけでも勉強になるよ」</p> <p>「一組も取れなかった人はどんな手伝いができる？」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体を動かすことで、きちんと座って学習するのが苦手な子も意欲がもてる。</li> <li>対戦型の活動であるため、作戦会議や情報交換の話合いが生まれる。</li> <li>相手に見られるリスクがある中での活動そのものがチャレンジである。また、相手方に出て行く、ひたすら守るといった自分なりのリスクの大きさを選択できる。(チャレンジバイチョイス)</li> <li>思いついた熟語を大声に出す活動なので、集団の中で自然に声を出すことができる。</li> <li>チーム対抗なので、取ったカードで勝敗を決めることもできるが、あえて勝敗にこだわらず、活動そのものを楽しみながら漢字に慣れさせたい。</li> <li>対戦型なのに、なぜ勝敗をつけないのかの意味を考えさせることもできる。(ルールを守り、安心して楽しめる環境づくりのきっかけ)</li> <li>取ったカードは獲得した本人が貼るが、チームの他のメンバーも「自分ができること」を考えるようにさせたい。(貼る手伝い、同じ漢字のまとめ等)</li> </ul>	<p>実体験</p> <p>振り返り</p>
一斉	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科としての視点だけでなく、友達とのかかわり等の視点も、状況によって入れる。</li> <li>読み間違いがあった場合はチャレンジの姿勢をほめた上で訂正する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読み方の確認はカードを取れなかった子が主にリードする。(全員の参加意識)</li> <li>ゲーム的な楽しみから全体での発表につながるため、発表が主体的となり、ノートへの書き取り、さらには次の漢字の学習への意欲につながる。</li> </ul>	<p>一般化適用</p>

(3) 評価

- 友達とかかわり合いながら活動し、漢字の読み方、書き方、使い方等を楽しく学ぶことができたか。
- 自分が体験し、学習したことを友達に伝えることができたか。

8 まとめ

クラスでの活動の時は、36人が、机・椅子が普通に並んだ教室でもしっかり活動できた。しかし、夢中になるとスピードが出て危険なので安全確保には神経をつかった。安全面を考えれば、体育館等、広い方が活動しやすいのかもしれないが、机や椅子といった“隠れる場所”があった方が盛り上がるし、また、限られた範囲での活動の方が多くの熟語が当てられるため、学習効果も高いと考える。安全面に関する声掛けを何度かした後は、互いに声を掛け合う等、児童自身も気を付けた活動ができた。ただ、相手が侵入できない「書く場所」はしっかり確保する必要がある。

活動の性質上、大声で言葉を発しなればいけないが、“強制”ではなく、本人のチャレンジととらえさせる。「できない」という場合、どうかかわるかを選択させることも重要である。ただ、国語の学習の一コマなので、何もできなかった子には、改めて「読む」という活躍の場を保障したい。

クラスで行うと、熱くなって相手に文句をつけたり、逆に「書く場所」から1歩も出ずに終わる児童も出てきた。そんな時は、細かにルールを検討するのではなく、国語の授業からは離れるが、「このあとどうしたい?」「周りの人はどんなことがしてあげられる?」と声掛けすることで、友達を責めるのではなく、肯定的な気付き（フルバリューコントラクト）を促すことができた。

授業の後、子どもの手で書かれた漢字カードが残るので、別の時間にフラッシュカード等で使うと、いつもより元気のよい、意欲的な声で答える姿が見られた。この授業では、ただ単に目先を変えて楽しくやるというだけでなく、漢字への意欲や習熟と共に、失敗を恐れず自分からチャレンジする気持ちや、友達と協力しようとする気持ちを育てることができると考える。

※この活動の応用で、「熟語の1文字ずつ」の代わりに

「言葉」と「意味」(国語)

「人物」と「業績」(社会)

「年号」と「できごと」(社会)

「九九の式」と「積」(算数)

「花や虫」と「季節」(理科) …等でも同様のことができる。